

国際電気通信連合(ITU)
世界電気通信標準化総会(WTSA-20)の
結果概要

総務省
国際戦略局
通信規格課

目次

1. WTSA-20の概要

- ITU世界電気通信標準化総会の歴史
- ITU世界電気通信標準化総会(WTSA-20)について
- そもそも：決議とは、勧告とは
- ITUの組織図
- 会議の構成
- 日本代表団の体制

2. コロナ渦におけるWTSA会合

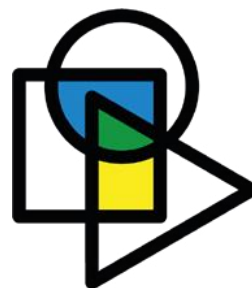
- スイス入国編
- WTSA-20開催前の頻繁なルール変更
- ジュネーブの様子
- WTSA-20会場

3. WTSA-20の結果・議論模様

- SG及びTSAGの議長、副議長の選出について
- TSAG/SG議長・副議長立候補リスト
- ロシアのウクライナ侵攻に伴うSG役職者等に関する議論
- Point of Order：議事運営上の問題点
- 役職者選挙の結果
- 前会期SG議長による活動報告
- 決議案の議論の結果
- 審議方法に関する寄書
- 各地域からの新決議提案
- 合意された新決議
- 議論の結果、作成・変更されなかった提案
- 廃止された決議
- ITUによる認証マークに関するWTSAでの経緯
- 決議76に関する議論の概要
- その他の決議に関する主な議論の概要
- 関連イベント

4. まとめ

1. WTSA-20の概要



ITU WTSA-20
GENEVA2022

Setting the standard

1- 9 March 2022
Geneva, Switzerland

ITU世界電気通信標準化総会の歴史

1992

- 国際電気通信連合憲章・条約→3局体制へ

1996

- ジュネーブ, スイス ※WTSC

2000

- モントリオール, カナダ ※初のWTSA

2004

- フロリアノポリス, ブラジル

2008

- ヨハネスブルグ, 南アフリカ共和国

2012

- ドバイ, アラブ首長国連邦

2016

- ヤスミン・ハマメット, チュニジア共和国

2022

- ジュネーブ, スイス

ITU世界電気通信標準化総会(WTSA-20)について

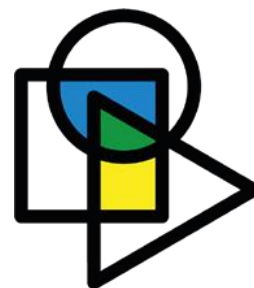
世界電気通信標準化総会(WTSA: World Telecommunication Standardization Assembly)

- ITUでネットワーク分野の標準化を行う電気通信標準化部門(ITU-T)の総会であり、4年に1回開催。
- WTSA-20は、当初2020年11月17日～27日にハイデラバード(インド)で開催予定だったが、新型コロナウイルスの影響により2021年2月23日～3月5日へ延期。
- ITU理事会バーチャルコンサルテーション第2回において2022年3月1日～9日への再延期に合意。併せて、電気通信標準化諮問委員会(TSAG)を3回(2021年1月、10月、2022年1月)開催が合意。
- 2021年1月TSAGにおいて、期間が短縮されたことから、研究体制の変更は行わないこと、電気通信標準化諮問委員会(TSAG)で実施可能な内容(研究課題の更新、勧告の承認)はTSAGで実施することに合意。
- 2021年9月にインドがホストを取り下げ、ジュネーブでの開催に変更となった。

WTSA-20における主な議題

従来と異なり**太字箇所のみ**議論された

1. 次会期における研究体制の決定
→研究体制の変更は行わないことが合意。
2. **TSAG/研究委員会(SG)議長・副議長の任命**
3. 次会期の研究課題の承認
→2021年1月TSAGで実施済。
4. **決議案の承認**
5. 勧告案の承認
→TSAGで実施。



ITU WTSA-20
GENEVA2022

Setting the standard

1-9 March 2022
Geneva, Switzerland

そもそも：決議とは、勧告とは

WTSAにおいては、以下の種類の文書について議論・承認される。

◆ WTSA決議 (Resolution)

WTSAあるいはSGの業務の体制あるいは方法に関する指針を与える文書。
その内容はWTSAで見直される。

◆ ITU-T勧告 (Recommendation)

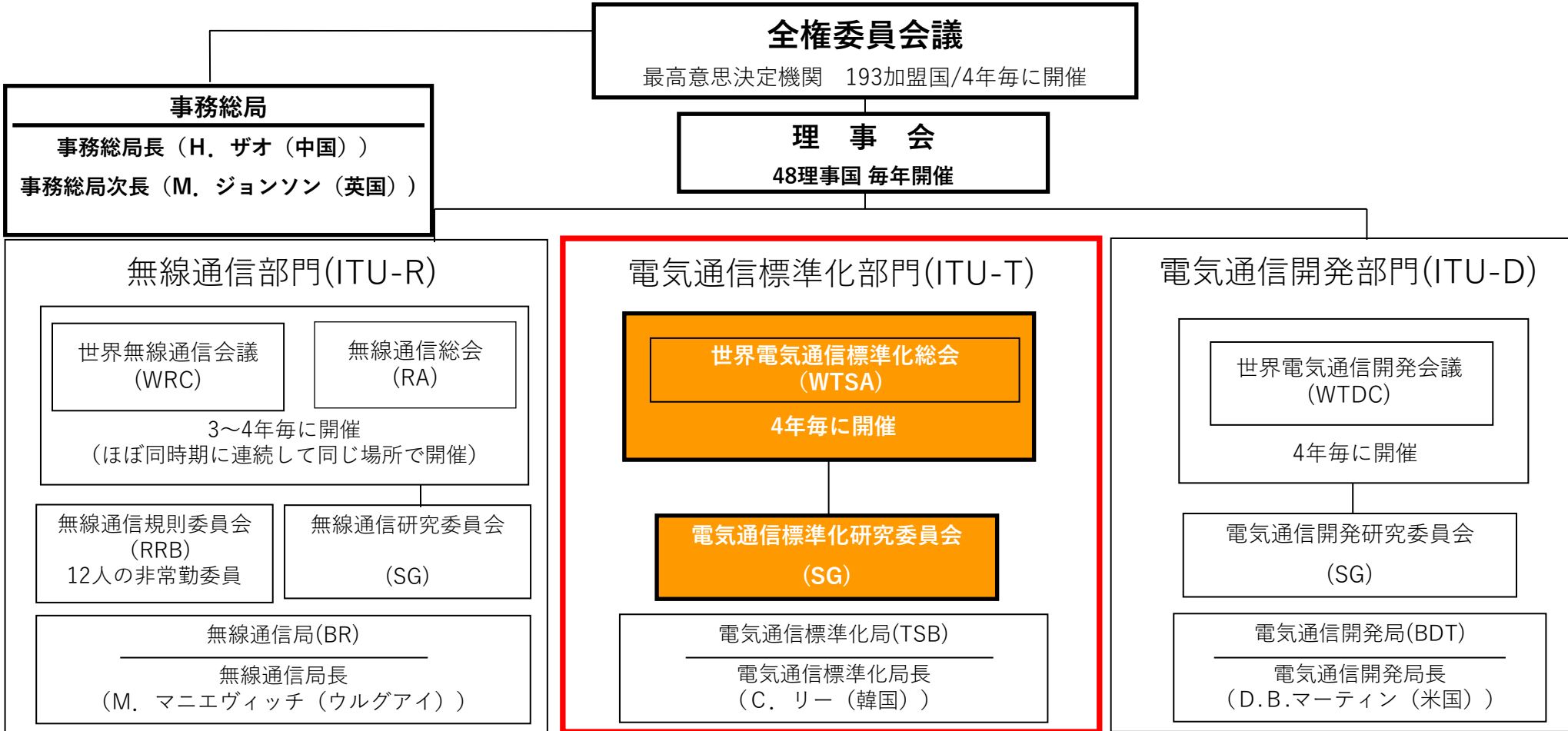
主にITU-T SGの研究活動の成果として策定された標準。

ITU-T 勧告は、技術分野毎にアルファベットが付与され、シリーズを構成している。

WTSAにおいては、SGから提出される勧告案及び地域提案の勧告案（主に「ITU-T業務に関する組織」を定めるAシリーズ勧告）について議論される。

ITUの組織図

- 電気通信に関する国際連合の専門機関 (ITU : International Telecommunication Union)
- 主要任務は、①国際的な周波数の分配、②電気通信の標準化、③途上国に対する電気通信の開発支援
- 本部：スイス・ジュネーブ 193の国・地域が加盟
- 日本は1959年以来、理事国(48カ国)に選出



WTSA-20会合構成

Plenary (全体会合)

議長：
Mr. Bruce GRACIE
(カナダ、エリクソン)



副議長：
日本、ドイツ、UAE、
ガーナ、メキシコ



前田参与

Committee2(予算管理)

議長： Mr. Bahtiyar MAMMADOV (アゼルバイジャン)
副議長： 日本、セネガル、カナダ、チュニジア

Committee3(ITU-Tの作業方法)

議長： Mr. Steve TROWBRIDGE (米国)
副議長： ウズベキスタン、ウガンダ、中国

Working Group 3A (手続規則・電子的作業方法等)

議長： Ms. Basma TAWFIK (エジプト)
副議長： 韓国

Working Group 3B (連携強化等)

議長： Mr. Arnaud TADDEI (英国)
副議長： ナイジェリア

Committee4(ITU-Tの作業計画・組織)

議長： Mr. Philip RUSHTON (英国)
副議長： スーダン、ブラジル、UAE

Working Group 4A (インターネット関連決議等)

議長： Mr. Hyoung Jun KIM (韓国)
副議長： チュニジア

Working Group 4B (標準化格差是正等)

議長： Mr. João Alexandre Moncaio ZANON (ブラジル)
副議長： コートジボアール

Committee5(編集)

議長： Ms. Rim BELHAJ (チュニジア)
副議長： クウェート、中国、米国、スペイン

日本代表団の体制

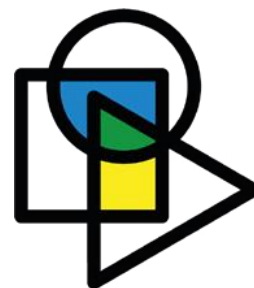
◆ 総務省（物理出席）

- 尾上候補(NTT)、前田参与(TTC)
- 通信規格課：山口課長、重野分析官、長屋推進官、山口専門職、真塚官
- 国際戦略課：榊田専門官、佐藤専門職、川野官

◆ 民間企業のみなさま

- 12社より38名が参加、うち6名が物理参加
（レセプション関係者を除く）
- NICT、NEC、NTT、NTTデータ経営研究所、NTTドコモ、OKI、KDDI、ソフトバンク、日本ITU協会、日立製作所、富士通、三菱電機、楽天モバイル

2. コロナ渦におけるWTSA会合



ITU WTSA-20
GENEVA2022

Setting the standard

1- 9 March 2022
Geneva, Switzerland

コロナ渦におけるWTSA会合：スイス入国

WTSA会合前のスイスは入国時に通常の要件に加え、新型コロナウイルス対策により、追加の要件が求められていたため、準備を行った。

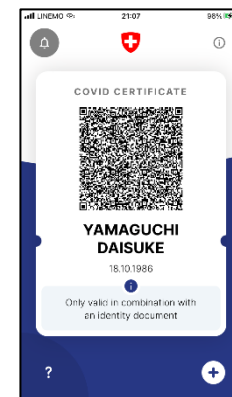
基本要件

- ・ 無査証滞在の条件 あらゆる**180**日間の期間内で合計**90**日以内の滞在
- ・ 旅券の残存期間 シェンゲン協定加盟国出国予定日から**3**ヵ月以上
- ・ 旅券の未使用査証欄 **1**ページ以上

追加要件

1. 英語表記のワクチン接種証明書の取得
2. ~~スイス入国前**48**時間以内のオンライン登録フォームの申請~~
※2月16日に廃止
3. ワクチン証明書に値するスイスのコロナ証明書の事前オンライン申請
4. スイスのコロナ証明アプリ提示によるワクチン接種証明

■ スイスの
ワクチン証明アプリ
「COVID Certificate」



WTSA-20開催前の頻繁なルール変更

- 2021-12-20行動制限ルールを見直し、「2Gルール」を導入
 - 2Gルール:ワクチン接種2回完了、罹患からの回復のみをイベントなどへの入場要件とする
 - 職場でのテレワーク対応義務を復活、出社を要する業務の管理強化
- 2022-01-19水際対応、行動制限ルールのさらなる改訂を実施(当面3月末まで有効)
 - コロナ証明書(COVID Certificate)の提示
 - 公共交通機関内、駅、バス等の停車場、公共施設内等におけるマスク着用義務
飲食店・文化・スポーツ・娯楽施設の屋内空間及び屋内イベントでの2Gルールと飲食時の着席義務
 - ホームオフィス義務と職場室内でのマスク着用義務
 - 屋内での私的集会の人数などの制限
 - 教育機関でのマスク着用義務など、各州で一部対応が異なる
- 2022-02-09濃厚接触者の隔離義務を撤廃
- 2022-02-16水際対応、ほとんどの行動制限ルールを廃止(前述)

コロナ渦におけるWTSA会合：ジュネーブの様子

スイス政府は2022年2月16日にほとんどの行動制限措置を廃止した。当時残っていた行動制限は、3月末日までの医療機関と公共交通機関でのマスク着用義務のみであったが、一部の店舗やイベントでは自主的にマスク着用などの行動制限を求めていることがあった。

■ 市中の様子 マスク着用はほとんど見られなかった



コロナ渦におけるWTSA会合：WTSA-20会場

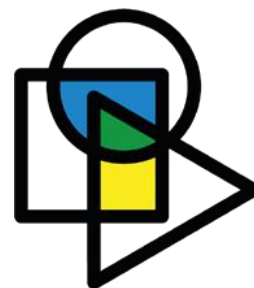
WTSA会合関連会場における感染対策はITUのウェブサイトのPractical Informationに掲載された。一例を紹介する。

- CICG、CCV、ITU本部入場にあたり、コロナ証明書提示は不要。
- 会場内はマスク着用が必要。
- 感染した場合、
 - 感染者本人はスイス政府の基準に従い5日間の隔離。
 - RFIDバッジを通じて接触者が追跡される。
 - ITUメディカルサービスが必要に応じて抗原検査を行い、医療施設を紹介。
- 会合期間のうち、3月7～9日の3日間はCCV敷地内にPCR検査施設を設置、会議時間外の予約で、24時間以内に結果を提供。
- Plenary、Committee、Adhoc group、Drafting groupのすべてにリモート参加機能を提供するが、並行セッションの数に限りがある。
- 意思決定は物理的に出席している代表者（delegates）によって行われる。

■RFIDバッジとリーダー



3. WTSA-20会合の結果・議論模様



ITU WTSA-20
GENEVA2022

Setting the standard

1- 9 March 2022
Geneva, Switzerland

TSAG/SG議長・副議長立候補リスト

SG名	役職名	名前(国)
SG2	議長	Philip Mark RUSHTON(英国)
		S.B. SINGH(インド)
	副議長	Philippe FOUQUART(フランス)
		Yanchuan WANG(中国)
		Hossam ABD EL MAOULA(エジプト)
		In Seop LEE(韓国)
		Ramazan YILMAZ(トルコ)
		Yaw Boamah BAAFI(ガーナ)
		Rashid AL MAMMARI(UAE)
		Fernando HERNANDEZ(ウルグアイ)
		Dmitry CHERKOSOV(ロシア)
		Ahmed SAID(エジプト)
		Abraão Balbino e SILVA(ブラジル)
Byoung Nam LEE(韓国)		
S.K. MISHRA(インド)		
SG3	議長	Eriko HONDO(日本: KDDI)
		Liliana BEIN(アルゼンチン)
		Mohammad Ahmad Almomani(ヨルダン)
	副議長	Karima MAHMOUDI(チュニジア)
		Aminata THIAM DRAME(セネガル)
		Alexey BORODIN(ロシア)
		Ena DEKANIC(米国)
		Mihail ION(ルーマニア)
		Zuhair AL-ZUHAIR(クウェート)
		Hui CHEN(中国)
		Fred ASUMANU(ガーナ)
		Marthe UWAMARIYA(ルワンダ)
		Sultan ALRUWAIS(サウジ)
		Omar AL NEMRU(UAE)
		Zeinab MUDATHIR(スーダン)
		Dominique WURGES(フランス)
		Shuguang QI(中国)
		Satish JAMADAGNI(インド)
		SG5
Nevin TEWFIK(エジプト)		
副議長	Vincent Urbain NAMRONA(中央アフリカ)	
	Jean-Manuel CANET(フランス)	
	Pedro BRISSON(アルゼンチン)	
	Beniamino GORINI(イタリア)	
	Vijay Kumar ROY(インド)	
	Byung Chan KIM(韓国)	
	Satoshi MIYAJI(日本: KDDI)	
	Zhifan SHENG(中国)	
TaeKyoon KIM(韓国)		
SG9	議長	Blaise Corsaire MAMADOU(中央アフリカ)
		Satinder Kumar BHALLA(インド)
	副議長	

SG名	役職名	名前(国)
SG11	議長	Ritu Ranjan MITTAR(インド)
		Andrey KUCHERYAVY(ロシア)
	副議長	Kaoru KENYOSHI(日本: NICT)
		João ZANON(ブラジル)
		Xiaojie ZHU(中国)
		Juan Matias CATTANEO(アルゼンチン)
		Karim LOUKIL(チュニジア)
		Namseok KO(韓国)
		Uwe BAEDER(ドイツ)
		Ibrahim ABDALLA(スーダン)
		Arezu OROJLU(イラン)
		Kofi Ntim YEBOAH-KORDIEH(ガーナ)
		Tania VILLA TRAPALA(メキシコ)
SG12	議長	Kazuhsa YAMAGISHI(日本: NTT)
		Zeid Alkadi(ヨルダン)
	副議長	Aymen SALEH(チュニジア)
		Seong-Ho JEONG(韓国)
		Mehmet ÖZDEM(トルコ)
		Yvonne Umutoni(ルワンダ)
		Sergio Daniel D'UVA(アルゼンチン)
		Collins MBULO(ザンビア)
		Edoyemi OGOH(ナイジェリア)
		Malick SYLLA(セネガル)
		Lei YANG(中国)
		Mohsene Abdelfettah TEBBI(アルジェリア)
		Ammar ABDALLAH(スーダン)
Samuel AGYEKUM(ガーナ)		
Sanjeev SHARMA(インド)		
SG13	議長	Kazunori TANIKAWA(日本: NICT)
		Scott Mansfield(カナダ)
	副議長	Rim BELHASSINE-CHERIF(チュニジア)
		Hyungsoo KIM(韓国)
		Brice Murara(ルワンダ)
		Anabel DEL CARMEN CISNEROS(アルゼンチン)
		Mehmet TOY(米国)
		Faleh ALGHAMDI(サウジ)
		Yuan ZHANG(中国)
		Bülent ARSAL(トルコ)
Abhay Shanker VERMA(インド)		
SG15	議長	Noriyuki ARAKI(日本: NTT)
		Glenn Wilson PARSONS(カナダ)
	副議長	Shaohua YU(中国)
		Cyrille Vivien VEZONGADA(中央アフリカ)
		Thomas HUBER(米国)
		Taesik CHEUNG(韓国)
		Mohamed Amine BENZIANE(アルジェリア)
		Ram Raj YADAVA(インド)
		Sudipta BHAUMIK(インド)
		Emanuele NASTRI(イタリア)

SG名	役職名	名前(国)		
SG16	議長	Zhong LUO(中国)		
		Hideki YAMAMOTO(日本: OKI)		
	副議長	Sarra REBHI(チュニジア)		
		Charles Zoé BANGA(中央アフリカ)		
		Per Anders FRÖJDH(スウェーデン)		
		Justin RIDGE(米国)		
		Shin-Gak KANG(韓国)		
		Ashok KUMAR(インド)		
		Heung Youl YOUM(韓国)		
		SG17	議長	Yutaka MIYAKE(日本: KDDI)
				Wala TURKI LATROUS(チュニジア)
			副議長	Gökhan EVREN(トルコ)
				Vasily DOLMATOV(ロシア)
Samir Gaber ABDEL-GAWAD(エジプト)				
Lia MOLINARI(アルゼンチン)				
Greg RATTI(米国)				
Eric Anicet MBATHAS(中央アフリカ)				
Liang WEI(中国)				
Lailay ALMANSOURY(クウェート)				
Pushpendra Kumar SINGH(インド)				
Arnaud TADDEI(米国)				
Afnan ALROMI(サウジ)				
Abderrazak BACHIR BOUIADJRA(アルジェリア)				
SG20	議長	Nasser Saleh Al Marzouqi(UAE) ※		
		Toru YAMADA(日本: NEC)		
	副議長	Ramy AHMED FATHY(エジプト)		
		Héctor Mario CARRIL(アルゼンチン)		
		Fabio BIGI(イタリア)		
		Achime Malick NDIAYE(セネガル)		
		Hyoung Jun KIM(韓国)		
		Ziqin SANG(中国)		
		Oleg MIRONNIKOV(ロシア)		
		Muneera ALZAYANI(パレチン)		
		Shane HE(フランス)		
		Ali ABBASSENE(アルジェリア)		
		Sushil KUMAR(インド)		
Emmanuel MANASSEH(コンゴ)				
Harin GREWAL(シンガポール)				
Muath ALRUMAYH(サウジ)				
TSAG	議長	Abdurahman AL HASSAN(サウジ アラビア)		
		Stephen TROWBRIDGE(米国)		
	副議長	Miho NAGANUMA(日本: NEC)		
		Rim BELHASSINE-CHERIF(チュニジア)		
		Ahmed EL-RAGHY(エジプト)		
		Gaëlle MARTIN-COCHER(カナダ)		
		Edgardo Guillermo Clemente(アルゼンチン)		
		Victor Manuel Martínez Vanegas(メキシコ)		
		Guy-Michel KOUAKOU(コートジボワール)		
		Omar Al-Odat(ヨルダン)		
Samyoung CHUNG(韓国)				
Fang LI(中国)				
Premjit LAL(インド)				
Yevgeny TONKIKH(ロシア)				
Olivier DUBUISSON(フランス)				

※会合前に立候補を取り下げ

SG及びTSAGの議長、副議長の選出について

選出方法に関する規定：PP決議208 ※

※ITU-Tにおける規定を定めていたWTSA決議35は、初日のプレナリで削除に合意

- **resolves 4**：議長及び副議長の任期は、連続する総会間で2期を超えてはならない。
- **resolves further 2ITU**：地域間の公平な地理的配分を確保するため、セクター諮問委員会の副議長の任命は各地域組織から2名まで、SGの副議長の任命は各地域組織から2～3名の候補者に限定されるべき。
- **resolves further 3**：議長職や副議長職を持たない国からの候補者の任命が奨励されるべきこと。
- **Annex 2 「議長・副議長の資格」**
 - a) 関連する専門的な知識および経験。
 - b) 関連するSGへの継続的な参加、またはセクター諮問委員会の議長および副議長については、ITU全般および各セクターへの継続的な参加。 など

実際に現地で行われた調整

➤ 非公式な事前調整

欧州が議長について地域バランスを主張

上記の上限を超える副議長については、TSB局長及び各国の代表との間で調整が行われた。特にインドが全グループに候補者を出したアジア地域及びアフリカ地域から多くの候補者がいたSG3で苦戦した。

空席のSG20議長については、韓国がHyong Jun Kim氏及びイタリアFabio BIGI氏が立候補。

➤ HoD会合での議論

後述のロシア候補者の取り扱いを巡り、通常より多く4回のHoD会合が開かれた。

ロシアのウクライナ侵攻に伴うSG役職者等に関する議論

■初日のPlenary会合

- ウクライナ、EU27カ国、米加英豪日ガーナがロシアによるウクライナへの侵攻を非難する声明を読み上げ。
- ウクライナが、ロシアがUN憲章に違反したことを理由として、WTSA-20、TSAG及びSGそれぞれの役職者へロシア推薦の候補者が任命されることに反対し、EU27カ国、米加英豪が支持。ロシアは、役職者の選定基準に国籍条項はないとして、ウクライナの発言に反対し、ベラルーシが支持。

〔 会期中に複数のHoD会合及び個別国間で調整が行われたものの、
最終日まで合意が得られなかった。 〕

■最終日のPlenary会合

- ITU-T事務局は、ロシア候補者を未合意として含めたTSAG/SG役職者のリストを提出。
- ウクライナ、EU27カ国、米加英豪日、スウェーデン、アイスランドが、ロシア候補者の削除を支持、ロシア、中国、ベラルーシが反対。
- 議長から、ロシア推薦の候補者を削除することで合意する旨の発言が行われたところで、ロシアが議論の継続を求める動議(Point of Order)を実施し、無記名投票を求めた。
- 投票の結果、有効投票数 100、支持(ロシア候補者の削除)53、反対 19、棄権28となり、ロシア候補者を削除したTSAG/SG役職者のリストに合意した。



ロシアからの動議の瞬間

Point of Order : 議事運営上の問題点

GENERAL RULES OF CONFERENCES, ASSEMBLIES AND MEETINGS OF THE UNION 20.3

Motions of order and points of orderによれば、以下の通り定義されており、投票 (Voting) のきっかけとなっている。

20.3 Motions of order and points of order

1) During debates, any delegation may, when it thinks fit, submit a motion of order or raise a point of order, which shall at once be settled by the chairman in accordance with these Rules of Procedure. Any delegation may appeal against the chairman's ruling, which shall however stand unless a majority of the delegations present and voting are against it.

意識 :

20.3議事運営上の動議及び議事運営上の指摘

1) 議論の間、いずれの代表団も適切と考える時、議事運営上の動議を提出、又は議事運営上の指摘 (Point of Order) を挙げることができる。いかなる代表団も議長の裁定に異議を申し立てることができるが、代表者の多数の主張または投票(Voting)によらない限り、認められる。

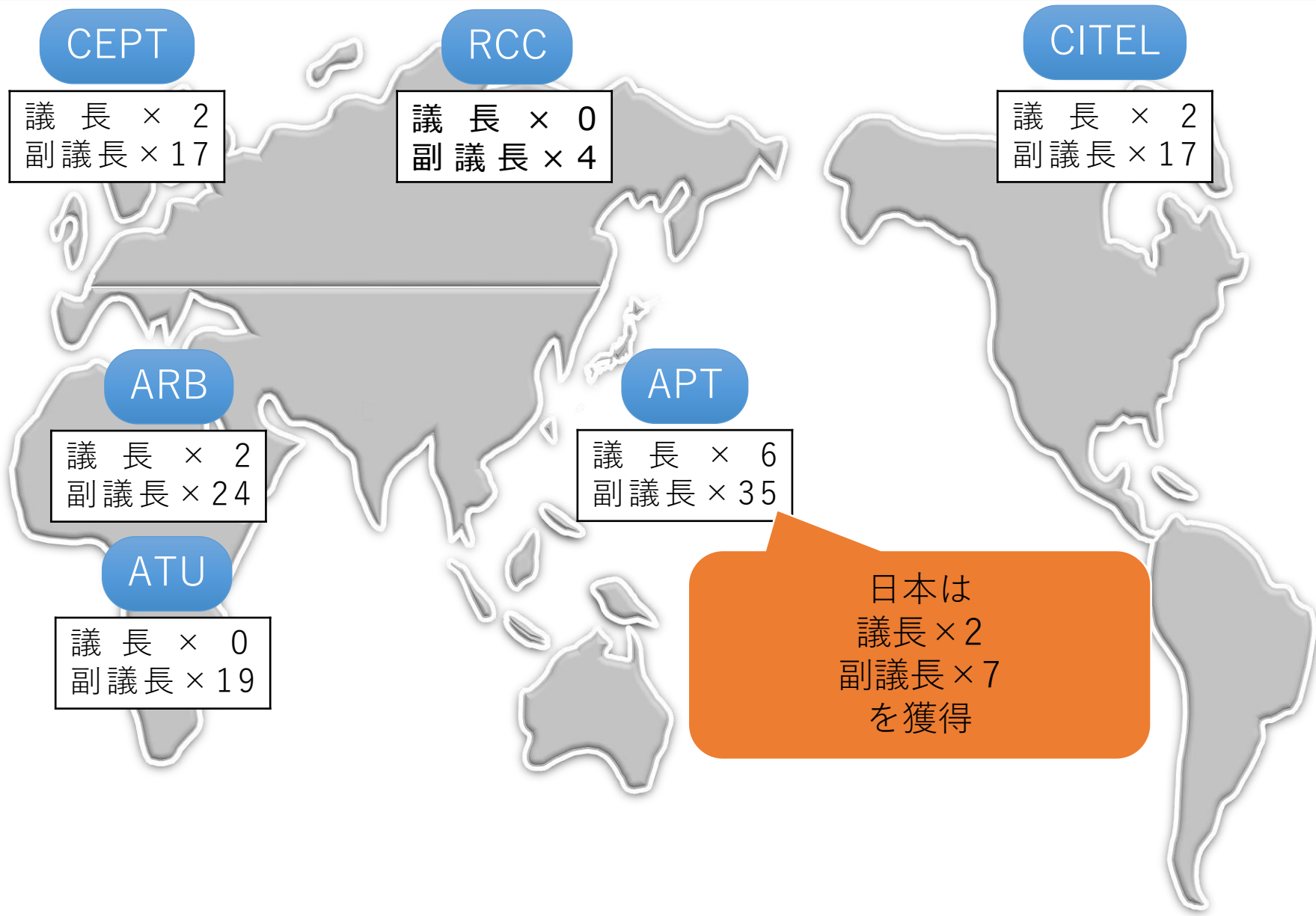


役職者選挙の結果

SG等	活動内容	議長	副議長(日本)
TSAG	ITU-Tの活動の作業方法、優先事項、計画	Mr. Abdurahman AL HASSAN (サウジアラビア)	新 永沼 美保(NEC) 新
SG2	サービス提供の運用側面及び電気通信管理	Mr. Philip RUSHTON (英国)	再 — —
SG3	料金及び会計原則並びに国際電気通信・ICTの経済及び政策課題	Mr. Ahmed SAID (エジプト)	新 本堂 恵利子(KDDI) 新
SG5	電磁界(EMF)、環境、気候活動、持続可能なデジタル化及び循環経済	Mr. Dominique WÜRGES (フランス)	新 高谷 和宏(NTT) 再
SG9	音声映像コンテンツ伝送及び統合型広帯域ケーブル網	宮地 悟史 (KDDI)	再 — —
SG11	信号要求、プロトコル、試験仕様及び偽造ICTデバイス対策	Mr. Sh. Ritu Ranja MITTAR (インド)	新 — —
SG12	性能、サービス品質及びユーザー体感品質	Ms. Tania VILLA TRAPALA (メキシコ)	新 山岸 和久(NTT) 新
SG13	将来網及び新興ネットワーク技術	谷川 和法 (NICT)	新 — —
SG15	伝送、アクセス及びホーム網のためのネットワーク技術と基盤設備	Mr. Glenn Wilson PARSONS (カナダ)	新 — —
SG16	マルチメディア及び関連デジタル技術	Mr. Zhong LUO (中国)	再 山本 秀樹(OKI) 再
SG17	セキュリティ	Mr. Heung Youl YOUM (韓国)	再 三宅 優(KDDI) 再
SG20	IoT並びにスマートシティ及びコミュニティ	Mr. Hyoung Jun KIM (韓国)	新 山田 徹(NEC) 再

赤字は今回活動内容に変更があったもの
新：新任、再：再任

役職者選挙の結果（地域バランス）



前会期SG議長による活動報告

SG3：津川議長



前会期SG議長による活動報告

SG9：宮地議長

ITUW TSA-20
GENEVA2022
1- 9 March 2022
Geneva, Switzerland

SSID: WTSA
Key: return2ITU

RESPONSIBILITIES OF SG9

Television program (audio and video) including UHDTV, HDR, 3D, etc.	Cable telephony	Video on demand (VOD)	OTT services	Other interactive services
Sound program	IP enabler (cable modem)			
Related data	Cable and hybrid network to home e.g., coaxial cable, optical fiber, hybrid fiber-coaxial (HFC)			
Telecommunication systems				

1 Television and sound program transport for

- Contribution: studio to broadcasting station
- Primary distribution: broadcasting station to cable television headend
- Secondary distribution: cable television headend to home

2 Integrated broadband and cable television

The first one is -- (poor audio quality).
 Of television and sound programme, including related data over the communication systems and our second mandate, it is integrated broadband and cable television, realtime interactive services such as cable

#WTSA20



決議案の議論の結果

審議時間が限られる中、決議案についてコンセンサスが得られない場合は、オリジナルの文章から変更しないことを原則とし、迅速に審議が進められ、下記の2件の新決議及び36件の決議改定に合意した。

※赤字は今回タイトルに変更があったもの及び新決議

決議	和訳タイトル
1	ITU-Tの手続き規則
2	ITU-TSGの責任及び担務
7	国際標準化機構(ISO)及び国際電気標準会議(IEC)との協調
18	ITU-R、ITU-T及びITU-D間の作業割当及び協力・調整の強化のための原則と手続き
20	国際電気通信番号、ネーミング、アドレス付与及び識別資源の割当と管理手順
22	WTSA間のTSAGの権限
29	国際電気通信ネットワークにおける代替通話手段
34	任意拠出金
40	ITU-T作業の規制的及び政策的側面
43	WTSAに向けた各地域での準備
44	発展途上国と先進国との間での標準化格差の是正
48	国際化(多言語)ドメイン名
50	サイバーセキュリティ
54	ITU-T SGの地域グループ
55	ITU-T活動におけるジェンダー平等の促進
58	発展途上国向けのCIRT機能整備の促進
60	識別/番号システムの進化とIPベースのシステム・ネットワークとの統合に向けた検討
61	国際電話番号資源の悪用及び誤用への対策/対抗
64	IPアドレスの割当及びIPv6への移行と普及の促進
65	発信番号の送付、発信回線特定と発信者情報特定
67	連合の公用言語のITU-Tでの平等な使用及び用語の標準化委員会(SCV)

決議	和訳タイトル
70	障がいや特別なニーズを持つ人々のための電気通信/ICTアクセシビリティ
72	電磁界への人体ばく露の測定及び評価に関する研究
73	ICT、環境、気候変動及び循環経済
74	ITU-T活動への発展途上国セクタメンバの参加促進
75	SDG2030アジェンダを考慮した世界情報社会サミット (WSIS) 成果の実施へのITU-Tの寄与
76	適合性及び相互接続性試験、発展途上国支援、将来的なITUマークプログラムの実現に関する研究
78	e-healthサービスへのアクセスを向上するためのICTアプリケーションと標準
79	電気通信/ICT機器から生じるe-wasteの扱いと管理における電気通信/ICTの役割及びその手法
84	電気通信/ICTサービス利用者の保護に関する研究
89	金融包摂ギャップを埋めるためのICT利用の促進
91	ITU-Tが公表する番号計画情報の電子的レポジトリへのアクセス強化
92	IMTの非無線分野に関するITU-T標準化活動の強化
95	サービス品質に関するベストプラクティス及び政策への意識を向上させるためのITU-Tのイニシアチブ
97	移動体通信端末の盗難対策
98	世界的発展のためのIoTとスマートシティ・コミュニティの標準化の強化
99	ITU-T SGの組織再編の検討【新決議】
100	アフリカ共通の緊急電話番号【新決議】

審議方法に関する寄書

英国のとりまとめにより物理的・仮想的な参加への障壁が生じないように、今回のWTSAの作業に対する連名寄書が提出された。

当寄書の連名国（寄書記載順）

- ①ドイツ ②アルゼンチン ③オーストラリア ④オーストリア ⑤バハマ ⑥ブルガリア
- ⑦カナダ ⑧デンマーク ⑨エルサルバドル ⑩フィンランド ⑪フランス ⑫ハンガリー
- ⑬リトアニア ⑭メキシコ ⑮ノルウェー ⑯オランダ ⑰スロバキア ⑱チェコ
- ⑲ルーマニア ⑳イギリス ㉑スウェーデン

提案内容

- ①委員会（Committees）、ドラフティンググループ、アドホック、非公式会議などの会議は、月～金曜日の8:00～19:00の就業時間内に行う。
（代表団会合やITU職員の業務上の会合は含まれない。）
- ②前述のすべての会議には、遠隔参加を支援するツールを備えるものとする。
- ③決議と勧告についてコンセンサスが得られない場合、投票ではなく「変更なし」に合意する。

結果

- ①運営委員会（Steering Committee）で議論され、必要な時間数を最小限にするよう努める。
（時間外の作業の必要性は運営委員会で判断される。）
- ②モデレーターの数、会議室や会議システムの枠の制約の範囲で提供する。
- ③一般規則に基づき、決議と勧告についてコンセンサスが得られない場合、「変更なし」を原則とする。

各地域からの新決議提案

地域 (機関名)	提案(和訳)
アラブ地域 (AST)	AI (人工知能)
	世界的なパンデミック対策におけるICTの役割
	ITU-T SGにおける組織改革に関する分析
	オープンアクセスネットワークの標準化を含むオープンネットワークの開発
アフリカ地域 (ATU)	世界的なパンデミックの早期発見におけるICTの役割
	アフリカの共通緊急電話番号
	OTTに関する新Questionの提案について
アジア地域 (APT)	世界的なパンデミックの拡大を防ぐためのICTの利用を促進するためのITU-Tの役割
欧州地域 (CEPT)	ITU電気通信標準化部門の活動における産業界の関与の重要性
	SMART海底ケーブルシステム
	ITU-Tにおける機械適用可能、可読性、伝達性 (SMART) のある標準の開発
米州地域 (CITEL)	ITU電気通信標準化部門の活動における産業界の関与の重要性
	ITU-Tの活動における対面及びバーチャルオプションの使用
	より効果的、効率的、目的に合った、包括的なITU標準化部門を目指して
	ITU電気通信標準化部門の活動における対面式と仮想式の選択肢の対等な利用
ロシア地域 (RCC)	MSISDNとIMSIを定義するための16進数の使用
	ITU-T SGの作業最適化と再構築のための提案

合意された新決議：2件

決議99：ITU-T SGの組織再編の検討

主な論点 (提案)

アラブ地域・アメリカ地域・ロシア地域よりWTSA-24でのSG再編に向けて、各SGの活動の分析を行うべく、提案された。分析にあたり外部コンサルタントの起用の是非の観点でアメリカ・ロシア地域の意見が対立しており、また既にTSAGにおいてSG再編に向けてのアクションプランが作成されていることから、その扱いについても議論された。

結果

TSAGが作成したアクションプランを実施するための決議として合意された。なお、本決議の元に作成される改革と見直しのアウトプットは、次のWTSAのためのガイダンスであり、その実施は義務ではないとされている。また外部コンサルタントに関する記述はなし。

決議100：アフリカ共通の緊急電話番号

主な論点 (提案)

アフリカ地域の加盟国ではITU-T E.161.1に準拠した緊急通信番号(112又は911)を利用していない傾向があることから、同勧告に基づく技術指導を求める提案。

結果

対象地域をアフリカと明確化した上で、新決議作成に合意。

議論の結果、作成・変更されなかった提案

関連SGで議論されるべきとされ、作成されなかった提案

◆ Open RANを含むオープンアクセスネットワーク（アラブ地域提案）→SG13

アラブよりOpen RANベースのIMTシステムの非無線部分を含む、開発に関連する標準化活動を強化・加速、フォーカスグループの設置、ワークショップの実施を提案。個別の技術の決議は必要なく既存の決議92「IMTの非無線分野に関するITU-T標準化活動の強化」でカバーされていることから新決議は作成されず。標準化ギャップ解消の観点はWTDCへ提案を行うことを奨励。

◆ MSISDN及びIMSI ※における16進数の利用（ロシア地域提案）→SG2

ロシアより、IoTやIPv6の普及による番号の枯渇に備えるため、MSISDNとIMSIの定義に16進数を使用することについて、SG2において検討することを提案。既存のシステムに影響を与える可能性があり、技術の検討の前にWTSA決議とすることは不適、SG2においてまずは検討すべきとされた。

※MSISDN：Mobile Subscriber Integrated Services Digital Number（携帯電話の電話番号のこと。国番号から始まる最長15桁の番号。）

IMSI：International Mobile Subscriber Identifier（携帯電話の加入者に発行される、国際的な加入者識別番号。SIMカードに記録される。）

◆ SMART海底ケーブル（欧州地域提案）→SG15

欧州より、海底ケーブルにセンサーを取り付け、温度や潮流等を測定するSMART海底ケーブルを促進することで、気候変動対策を進めることを提案。SG15で既に勧告化が進んでおり、決議の必要性が不明瞭であることからTSAG及び関連SGにテキストを送り、必要な活動を実施することを奨励。

議論の結果、作成・変更されなかった提案

2022年全権委員会議(PP-22)において議論することが推奨され、作成・変更されなかった提案

- ◆ **決議32「電子作業方法」、新決議案「対面とバーチャルの公平な利用」**
オンライン会議の利活用やガイドライン作成が提案された(日本提案を含む)が、全セクターに関わるものとして、PP-22において議論することを推奨した。
- ◆ **新決議案「AI」**
アラブ地域から提案されたが、研究対象のAI関連技術をITUのマンデート内とするための文言(例: AI related telecommunication/ICT)に合意出来ず、PP-22での議論を推奨した。
- ◆ **新決議案「パンデミックに対するICTの活用」**
アジア、アラブ、アフリカから同様の内容で提案がされたが、他のセクターも関わる提案とされ、PP-22での議論を推奨した。

その他

- ◆ **ITU-Tにおける機械による適用・読取・伝送が可能な標準 (SMART) の開発**
欧州より提案。ISOやIEC等との調整や、ITU-T内のみに影響が留まらないこと等の指摘があり、今会合では問題提起と情報の収集という結果を果たしたとされ、新決議としては議論されなかった。
- ◆ **ITU-Tにおける産業界の役割と関与**
決議68の変更及び新決議案を統合する方向で議論が行われたが、多くの変更点があったため、合意されなかった。ただし産業界の重要性が確認され、今後のTSAGにおいて継続議論が奨励された。

廃止された決議：4件

決議	Title	和訳タイトル	備考
35	Appointment and maximum term of office for chairmen and vice-chairmen of study groups of the Telecommunication Standardization Sector and of the Telecommunication Standardization Advisory Group	ITU-TのSGとTSAGの議長／副議長の任命と任期	同趣旨のPP決議208を引用（P.17参照）
45	Effective coordination of standardization work across study groups in the ITU Telecommunication Standardization Sector and the role of the ITU Telecommunication Standardization Advisory Group	ITU-TのSGを跨がる標準化活動の効果的な調整とTSAGの役割	WTSA決議22に統合
59	Enhancing participation of telecommunication operators from developing countries	発展途上国のテレコムオペレータの参加促進	WTSA決議44及び74に統合
66	Technology Watch in the Telecommunication Standardization Bureau	TSBにおけるテクノロジーウォッチ機能の創設	当該レポート2017年を最後に発行されていないため、削除

ITUによる認証マークに関するWTSAでの経緯

TSAG(2008年7月)：TSBより提案

- ITU勧告に準拠する機器に対する基準認証及び相互接続性試験を実施し、認証マーク (ITUマーク) を付与する提案。
- TSBの提案に賛成する国もあったが、等の意見があり議論。
 - end-to-end 相互接続性の保証の難しさ
 - どのように試験し確認するのか？
 - ITUマークはITUのvisibilityを高めるのが目的とあるが、ITUの収入増の意図があるのでは？
- 総じて、途上国は導入賛成、欧米等は批判的。
- **賛否まとまらず、TSAGが再検討してWTSA-08にて再度審議**

WTSA-08 (2008年10月21日～30日・南アフリカ ヨハネスブルグ)

- ITUマーク制度導入の目的、背景
 - ITU-T勧告への信頼性
 - 途上国が抱える問題 (導入コスト) 解決への支援
 - デジタルデバイド解消への期待
- 欧米諸国からは性急すぎるとの意見があったが、途上国からの要請もあり、**新決議76として承認。**
- 主な内容
 - 相互接続試験を扱う勧告の早期作成、試験仕様の策定。
 - 制度導入における課題の検討と、2009年ITU理事会への報告。

ITUによる認証マークに関するWTSAでの経緯

WTSA-12 (2012年11月20日～29日・アラブ首長国連邦 ドバイ)

- 決議.76について、各国からの改定案により審議
 - CITELE: 試験環境の構築の記述削除、ITUマーク関連の記述削除
 - APT: 途上国への人材育成支援を行うこと、試験環境の整備の支援を行うこと、ITUマークの導入は試験環境が整うまで待つべき
 - ATU: 途上国への人材育成支援強化、相互接続性試験センターの導入、ITUマークを含む認証プログラムの早期導入
- APT案をベースに議論されたが、議論がまとまらず、議長からの**2012年理事会の結果をベースに改訂決議案の調整**が図られ、改訂決議案が作成された。(ITU-Tでの議論をさけるような結果)
- 主な内容
 - 2012年理事会で承認された行動計画を執行。2012年理事会の決定にそって、ITUマーク導入可能性を念頭に、BDT局長と協力してITU適合性・相互接続性プログラムを執行。
 - SG11が活動を主導。
 - メンバーは、引き続き決議実現に寄与、国内/地域試験機関がこの勧告を支援するよう奨励。

WTSA-16 (2016年10月25日～11月3日・チュニジア共和国 ハマメット)

- 2012年のITU理事会の決定に基づき、ITU-T、主にSG11でC&Iに資する勧告の整備 (Pillar 1) が**成熟 (mature state) するまで延期**とされた。

決議76に関する議論の概要

決議76：適合性及び相互接続性試験、発展途上国支援、将来的なITUマークプログラムの実現に関する研究

主な論点 (提案)

2008年7月のTSAGでTSBより導入提案されたITUマーク制度に関する議論が中心。ITUマークとはITU-T勧告に準拠している機器に対して相互接続性試験を実施し、認証マークを付与することにより、エンドツーエンドの相互接続性の向上やITU-T勧告の信頼性の向上に資することを目的としているもの。総じて、途上国は導入賛成、欧米等は批判的な姿勢をとっており、今回は以下の通り。

- ・ ITU-IEC共同マークの導入を促進。（アラブ地域・アフリカ地域）
- ・ 加盟国とセクターメンバーに対し、MRAへの署名を奨励。（アラブ地域）
- ・ ITUが認定する試験所のデータベースを実装、維持。（ロシア地域）
- ・ TSB局長に対し、相互運用性試験イベントの促進を指示。（アジア地域）

結果

ATUとARBが提案したITU-IECの共同マークに関する記述やロシア地域が提案したデータベースに関する記述は採用されなかった。一方で、APT相互運用性試験イベントの促進については追記された。そのほか、現行の活動の反映などの合理化が行われた。なおITU-T、主にSG11でC&Iに資する勧告の整備（Pillar1）のアクションは依然としてPre-matureとの意見が多くあった。

その他の決議に関する主な議論の概要①

決議50：サイバーセキュリティ

主な論点 (提案)

- ・サイバー犯罪や法的枠組みにおける国際協力（アフリカ地域）
- ・サイバー犯罪や法的枠組みにおける国際協力、個人情報、プライバシー保護の重要性を強調し、新興技術のセキュリティ関連の研究活動の推進（アラブ地域）
- ・個人情報保護の重要性を強調（ロシア地域）
- ・ITU-T SG17を中心とした合同調整会合の設立を提案（アジア地域）

結果

プライバシーやサイバー犯罪はITUのマンデート外であるという日米欧の意見を踏まえ、懸念のある記載はすべて削除された。合同調整会合の設置は合意されない一方、SG17の役割は明記された。

その他の決議に関する主な議論の概要②

決議54：地域グループの設置及び支援

主な論点 (提案)

決議1の2.1.4, 2.3.2, 2.3.3, 5.2, 5.4及び9.2.1といった地域グループの権限や参加者についての項目について、決議54へ移動が検討された。また2019年9月のTSAGにおいて「当該地域に属さないメンバー国及びセクターメンバーは、オブザーバの立場で関連する地域会合に出席する権利を有する。」旨がITU法務部門から報告されており、本主旨の文面を決議54に追加するかどうかで活発な議論が行われた。

結果

決議1の2.3.2の移動先であるResolves 6において「他の研究委員会の地域グループの会合は、原則として、当該地域における研究委員会の加盟国、セクターメンバー、アカデミア及びアソシエイトの代表者及び代表者に限定する。」という書きぶりとなったが、加盟国及びセクターメンバーのそれぞれの地域外の地域会議への参加を制限していると解釈されるため適切ではないとして、以下21カ国が不支持である旨の声明が発信された。（アルファベット順）

オーストラリア、オーストリア、バハマ、ブルガリア、カナダ、チェコ共和国、フランス、ドイツ、日本、ラトビア、リヒテンシュタイン、リトアニア、メキシコ、オランダ、ポルトガル、ルーマニア、スペイン、スイス、スウェーデン、英国、米国

その他の決議に関する主な議論の概要③

決議96：電気通信/ICT装置の偽造対策のためのITU-Tの研究

主な論点 (提案)

PP決議188及びデジタル・オブジェクト・アーキテクチャに関する勧告 ITU T X.1255が引用されているが、特定の勧告を決議に記載すべきでないという議論がかねてより続けられており、今回も同項目の削除の是非が議論された。

結果

コンセンサスを得られず、変更なしとなった。
また、以下22カ国が不支持である旨の声明が発信された。(アルファベット順)
オーストラリア、オーストリア、ベルギー、ブルガリア、カナダ、チェコ共和国、デンマーク、フィンランド、フランス、ドイツ、日本、ラトビア、リトアニア、オランダ、ノルウェー、ポーランド、ポルトガル、ルーマニア、スペイン、スウェーデン、英国、米国

その他の決議に関する主な議論の概要④

決議98：世界的発展のためのIoTとスマートシティ・コミュニティの標準化の強化

主な論点 (提案)

- 途上国支援（フォーラム開催、キャパビル）の実施（アフリカ地域）
- スマートシティKPI採用の促進とKPI監査員の育成（アラブ地域）
- セクターメンバーに対し、ベストプラクティス・ドキュメントを開発し、普及させることを勧奨（アジア地域）
- 途上国支援（フォーラム開催）の実施（欧州地域）
- 勧告の実装について途上国支援の実施（米州地域）

結果

U4SSC KPIを明確に引用し、その実装を促進及び奨励することをITU-T局長に指示する。
途上国支援については、ITU-R/ITU-D局長との調整を明確化した上で提案を反映した。

関連イベント：レセプション

WTSA-20の会場では各国によるレセプションが開催された。
新型コロナ対策のため、HoD+1名、収容人数200人までなど、対象人数を絞って小規模に実施された。



■日本レセプションでスピーチする尾上候補

■会場の様子



関連イベント：第2回WISEイベント

第2回 Women In Standardization Expert group(WISE)イベントは、国際女性の日である3月8日(火)にITUモンブリアンビルにて開催された。

本イベントは、WTSA決議55(ITU-Tの活動におけるジェンダー公平性の推進)に記載されているWomen in Standardization Expert Group (WISE) プログラム推進の一環である。

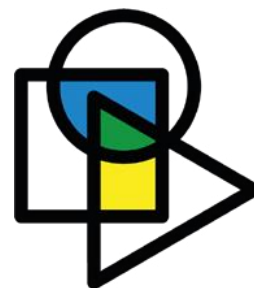
イベントでは、オーストラリアのアマンダ・ゴリー国連大使のキーノート、オーストラリアーITU間のMoU締結、ミシガン州立大学教授のAnjana Susarla氏からITU-Tにおけるジェンダーに関する報告が行われた。

最後に、“Why gender matters in setting standards”と題するパネルディスカッションが行われ、我が国からはNEC永沼氏がパネラーとして参加。永沼氏はリーダーシップの観点からITU-T標準化活動への卓越した貢献に対して、TSB局長から表彰をされた。



■ WISE会場の様子
(ジュネーブ・ITUモンブリアンビル2F)

4. まとめ



ITU WTSA-20
GENEVA2022

Setting the standard

1- 9 March 2022
Geneva, Switzerland

まとめ

- WTASA-20は新型コロナウイルスの影響により当初計画より約2年3ヶ月の延期を経て、開催となった。また従来と異なり、各研究委員会(SG)議長・副議長の任命と決議案の承認のみ議論された。
- 本会合は通信/ICTの標準化について議論する場であるが、他国侵攻に伴うUN憲章違反を理由に政治的要素が役職者任命に影響を与えた。また、地域別役職者の議席数はアジア太平洋地域に多く、偏りが出た。
- 決議案の承認に向けて、週末まで議論が行われた一方で、ハイブリッド開催にあたりリモート参加設備が準備され、また会議の効率化の観点から合意に至らない決議では変更なしとする原則が定められ、結果は以下の通りとなった。
 - 新決議：2
 - 決議改定：36
 - 廃止：4
 - 変更なし：20